

育児中学び直し

基金で後押し

神戸大MBA

社会人を対象に経営学の専門教育を実施する神戸大MBA(神戸市灘区)は、より幅広い学びの機会を提供することを目指す「多様な推進基金」を設立した。海外研修や新たな価値観による研究を奨励するほか、キャンパス内でのシッターサービスなど育児中の修学を支える環境を整備。学生の可能性拡大へつなげる。(神戸市島)



託児サービス、研究奨励 社会人学生が提案

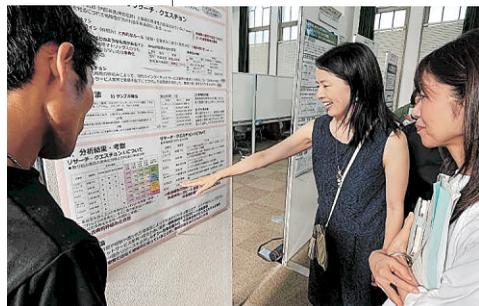
同大MBAは1989年に創設され、今年35周年。

社会人学生が仕事で直面する課題の解決につなげようと、マーケティングや会計、戦略など経営学全般を教え、これまでに1600人超の修了生を輩出してきた。

基金設立のきっかけは昨年、当時0歳の長男を抱えて入学した石神理予さん(41)同市中央区、楽天グループ勤務のアイデアだった。石神さんは学業の不安や家族への後ろめたさを感じる中、起業家の思考を実践的に学ぶ授業の一環で、育児中の学び直しを後押しする託児制度を大学に提案した。

一方、大学側も、入学者の女性比率が高まっているとはいえ2割以下にとどまる現状や、多様化する学生

ベビーシッターサービスを利用し、修士論文報告会に参加する学生ら



のニーズに応える必要性を課題としていた。より充実した環境を整備しようと、社会を巻き込んだ資金集めを企画した。

同基金は毎年度500万円以上を目標に、企業や個人から寄付を募集。海外研修の参加助成や、幅広いテーマの研究論文を奨励する賞の設置を企画している。

育児サポートでは学内の多目的室に絵本棚やカーペットを導入。学生の申請に応じて民間ベビーシッターに依頼し、利用料を補助する。保育所支援ビジネスを手がける修了生から、おむつとお尻拭きも提供された。

9月の修士論文報告会では、学生ら5人がサービスを利用。子ども8人が保育士などの資格を持つシッターと一緒に玩具で遊んだ

り、ベビーサークルの中で昼寝をしたりして過ごした。長男を預けて参加した石神さんは「安心して研究発表に集中することができた」と振り返る。

学教授は「さまざまな社会人学生の学びをバックアップすることで、より良い成果を社会に還元したい」と期待を込める。

同基金への寄付の問い合わせは同研究科総務係 ☎078・803・7256

子育てをしながら経営学を学ぶMBA学生のために開設された託児ルーム。いずれも神戸市灘区六甲台町、神戸大学